

第5回岩倉市子ども行動計画策定委員会 議事録

日 時 平成25年1月28日(月) 午前10時から
場 所 岩倉市役所 第1委員会室
出 席 者 委員9名、事務局7名

議 事 (1)小学生向けワークショップの報告について
(2)岩倉市子ども行動計画(案)について
(3)意見交換

配布資料 第5回岩倉市子ども行動計画策定委員会 次第
資料1 第4回岩倉市子ども行動計画策定委員会議事録
資料2 小学生向けワークショップ開催報告
資料3 岩倉市子ども行動計画案
資料4 岩倉市子ども行動計画(資料編)

1 はじめに(開会)

2 議事

(1)小学生向けワークショップの報告について

- ・このワークショップは、計画の中の居場所づくりに関わると思うが、具体的にどう反映されているのかを明確にした方が良い。
- ・参加した小学生は近くの小学校の児童だけか。
→市内各校からの参加があった。
- ・企画の段階から中高生も参加できると良い。

(2)岩倉市子ども行動計画(案)について

○全体に関わる事項

- ・本計画で対象としている子ども(0~18歳未満)についての説明がコラムで紹介されていると良い。
- ・児童館は0~18歳未満の子どもすべてが利用できる施設だが一般的には周知されていない。子どもの対象年齢とあわせてコラムで紹介できると良い。
- ・「高校生」という表現について、高校に通学していない子どももいるため、名古屋市を例に「高校生世代」と記載した方が良い。

○計画の視点

(1 「子どもの成長に応じた意識の違いへの理解」について)

- ・市民が「子どもがあったらよいと思う場所」のグラフを見たときに、子どもたちはコンビニやゲームセンターが欲しいと回答しており、その施設を増やしていくと捉えられてしまうと残念。「子ども感」をまずは大人が受け止めるということが伝わると良い。
- ・市のまちづくりへの子どもの参加についてのグラフ(資料編P.36)では子どもと保護者の回答に違いがあり、「自己肯定感」も学年が上がり高校生になるほど低くなっているの、そのあたりのギャップをどこかで説明できると良い。
- ・子どもの成長に応じた意識の違いがわかるグラフがあると良い。学年別のグラフをもっと見やすく示すと良い。

(3 「子どもの居場所」について)

- ・「居場所」は良く使うキーワードだが、人によっていろんな捉え方がある。場所という居場所と、人間関係という意味での居場所があるので、説明を追加したほうが良いかもしれない。
- ・「自己肯定感」のグラフが本編とどう結び付いているのか、相当説明しないと理解し辛いのではないか。
- ・子どもの想いを受け止める担い手としてのユースワーカーの存在をにおわせる記述があると良い。

(全体について)

- ・視点2、3のタイトルは他と比べると行動を表す言葉が足りないのではないか。
- 行動を示す「促進」「推進」といった言葉は第4章に出てくるので、視点のタイトルはこの程度で良いのではないか。視点1「子どもの成長に応じた意識の違いへの理解」はもう少し精査した方が良い。

○目標1 「子どもの意見表明・参加の促進」

- ・1(2)「まちづくりにおける子ども委員・子ども会議の設置」について

総合計画策定時に実施したユース世代まちづくりワークショップは先行事例になる。まちづくりに参画できる機会がイメージしやすいように、事例として写真を掲載すると良い。

- ・子ども委員や子ども会議と聞くと、子どもたちで行う議会といったイメージで捉えられがちであるが、まち歩きやワークショップを通じて子どもたちが提案をしていくというプロセスが子どもの発達には一番重要なので、そのあたりをもう少し説明して、先行事例として総計ワークショップの写真があると良い。既に先行事例があるというところで、第5章の庁内の関係各課との連携にも繋がる話ではないか。

- ・2(3)「岩倉こどものまち事業の推進」について

タイトルに違和感がある。「子どもが主体的に参加できる事業の推進」といった程度が良いのではないか。

- ・3(1)「学校における子どもの意見表明・参加の場づくり」について

記述にある内容は現在学校でも進めているが、前回記述のあった「連合体の組織化」のように市の予算で行う事業について、市内各学校で対応できる体制を考えると、各学校のホームページ上において計画にある施策の視点での発信をそれぞれ心がけてもらうことであ

れば可能であると思う。

○目標2「子どもの居場所づくりの推進」

- ・2(2)「学校開放の推進」について、現在どういった開放がされているのか。

→土曜開放では図書館や体育館やコンピューター室などを開放している。担い手は地域の方。(事務局)

- ・今年から曾野小学校と岩倉南小学校では岩倉スポーツクラブ(外郭団体が主催。指導者は地域の方。)で行う内容を企画している。

○目標3「子どもの権利に関する意識の向上」

- ・学校の権利学習や大人の啓発に使える権利条約の教材などの資料があると良い。

- ・2「保護者や周辺の大人に対する意識の向上」を推進することが一番重要と感じる。子どもに関わる市民グループは誰を指しているのか。例えば、子ども会は子どもの権利を促進されるのに良い立ち位置にいる。具体例が入ると一番良いが、この部分が一番重要だと思えるような計画になると良い。

- ・2(2)「市民への広報及び啓発の推進」について

「周知・普及を図るために、研修等を実施します」又は「研修を実施し、周知・普及を図ります」といった記述になるのではないか。

○目標4「子どもを見守る環境づくり」

- ・1(3)「関係機関との連携による児童相談体制の整備」、2(1)「子どもの権利救済窓口の充実」に幼稚園を入れていただきたい。

- ・権利救済委員会ほどの程度開催されていてどのような内容か。

→権利救済窓口(子どもと親の相談員、家庭児童相談室、市民相談室、心の相談電話)に上がってきた権利侵害の中でも大きいものを委員会へ上げて専門的見地から相談いただく位置づけであるが、対象となる案件がないため、各窓口でどういった相談があったかを年に1回報告している状況。(事務局)

○目標5「子育て家庭の支援」

- ・将来親になる若い世代が親になる心の準備ができるように、例えば高校で赤ちゃん抱っこ体験の出張学習などがあると良いのではないか。

- ・2(3)「ひとり親家庭の支援」というタイトルとその内容が一致していないので精査されると良い。

○その他

- ・年次計画は立案されるのか。この計画がどのように実行されていくのかがわかると良い。

- ・前回よりもバージョンアップされていて良い計画になっている。計画の中に具体的事業を書き込むのは難しいと思うので、別に事業立てをしてその中で優先順位を決めて年度毎に予算立てしていくと良いのではないか。

- ・高校で何ができるかを考えたときに、県立高校は県の施設のため学校の一存で決めることは難しいが、事業主体は市や別団体であれば、場所を提供しボランティアとして職員が参加す

ることは可能である。

3 その他

- 次回の策定委員会は、パブリックコメント実施後の3月中頃の開催を予定している。日時は改めて調整させていただきたい。

以上